

第 22 回歴史地震研究発表会プログラム

安政二年（1855 年）の江戸地震からちょうど 150 年を迎える 2005 年、東京都墨田区の江戸東京博物館のご協力を得て、次の日程で研究発表会・公開講座・総会が実施されました。

2005 年

9 月 16 日（金）、17 日（土）午前

・研究発表会

9 月 17 日（土）午後

・歴史地震研究会・江戸東京博物館公開講座

【首都直下地震について語る－安政江戸地震を踏まえて】

・総会

9 月 18 日（日）午前

・研究発表会

詳しいプログラムは以下の通りです。

9 月 16 日（金） 研究発表会一日目、懇親会

10 時 ～ 17 時 研究発表会（江戸東京博物館 1 階会議室）

〔歴史上の津波〕（10 時 ～ 11 時 40 分） 座長：井上公夫

1. 石辺岳男・島崎邦彦（東大地震研）・岡村 眞・松岡裕美（高知大）・千田 昇（大分大）：
慶長豊後地震の波源推定（続報）
2. 都司嘉宣（東大地震研）：小笠原諸島の津波史
3. 河名俊男（琉球大）・島袋永夫（沖縄プランニング）・中田 高（広島工大）・正木 譲（元
石垣島地方気象台）・島袋綾野（石垣市）：石垣島南部（四箇・平得・真栄里・大浜）にお
ける 1771 年明和津波の遡上高 ～ とくに戸高に関連して ～
4. 羽鳥徳太郎（元東大地震研）：東京湾・浦賀水道沿岸の元禄関東（1703）、安政東海（1854）
津波の遡上状況
5. 羽鳥徳太郎（元東大地震研）：九州北部近海の歴史地震と仮定津波の伝播図
6. 宍倉正展・澤井祐樹・鎌滝孝信（産総研）・Marco Cisternas（バルパライソカトリック大学）・
Brian Atwater（USGS）：チリ中南部沿岸の堆積物に記録された過去の巨大地震－史上最大
級のチリ地震はおよそ 300 年間隔で起きていた－

〔地震災害・津波被害〕（13 時 30 分 ～ 15 時 30 分） 座長：林 豊

7. 坂部和夫：天正地震（1586 年）時の岐阜県郡上市高鷲町における大規模山体崩壊について
8. 西山昭仁（大谷大）・小松原琢（産総研）：寛文二年（1662）近江・若狭地震における京都盆
地での被害状況
9. 渡邊 健（渡辺探査技研）・植竹富一（東京電力）・中村亮一（東電設計）・宇佐美龍夫（東
大名誉教授）：1828 年三条地震の絵図「懲震毖鑑」の示す地震の状況
10. 大林 綾（神奈川大）：1833 年（天保 4 年）加賀藩輪島町における津波被害について－能登
輪島住吉神社文書を中心に－
11. 井上公夫・今村隆正・笠原亮一（日本工営）：伊賀上野地震（1854）と南山城水害（1953）の
土砂災害の比較検証
12. 行谷佑一・都司嘉宣（東大地震研）：寺院神社の被害記事からみた安政東海地震（1854）の震
度分布
13. 榎本祐嗣（信州大）：小藤文次郎の濃尾地震根尾谷断層写真をめぐって
14. 小松原琢（産総研）：明治庄内地震の集落別被害と微地形

〔震災対応・危険度評価〕（15 時 45 分 ～ 17 時） 座長：西山昭仁

15. 林 能成・木村玲欧（名古屋大）：インタビュー調査から明らかになった 1945 年三河地震の災
害対応の様子
16. 木村玲欧・林 能成（名古屋大）：インタビュー調査から明らかになった被災者心理と行動パ
ターン－災害発生後 10 時間 失見当・救助・救出・安否確認－
17. 松岡祐也（東北大）：『言経卿記』に見る文禄五年伏見地震での震災対応－特に「和歌を押
す」行為について－

18. 大谷 寛・宮本大輔・上月康則・村上仁士（徳島大）：津波による被災状況を取り入れた避難ゲームの開発
19. 中村亮一（東電設計）・島崎邦彦（東大地震研）・Wahyu Triyoso（バンドン工科大）：歴史地震データを利用した地震危険度評価の検証手法

18時～20時 懇親会（江戸東京博物館7階「隅田川」）

9月17日（土） 研究発表会二日目，公開講座，総会

10時～12時 研究発表会（江戸東京博物館1階会議室）

〔歴史上の地震〕（10時～12時） 座長：小松原 琢

20. 徳光亮一・菅原正晴（東電設計）・植竹富一（東京電力）：震度分布性状から見た1828年三条地震の断層モデルの評価
21. 都司嘉宣・伊藤純一（東大地震研）：安政東海地震（1854-a）および安政南海地震（1854-b）の武者史料のピンポイント・データベース化
22. 小山真人・安藤さやか・岩垣舞・生島佳代子：自然現象記録媒体としての13世紀古記録の特性分析 — 未発見の東海地震探求のための基礎研究 —
23. 小松原純子・藤原 治・鎌滝孝信（産総研）：南海トラフ沿岸域における津波堆積物研究の現状
24. 堀 高峰（海洋研究開発機構）：巨大地震の連動性と発生間隔のゆらぎのメカニズム
25. 松浦律子（地震予知総合研究振興会）・中村 操・茅野一郎・唐鎌郁夫（防災情報サービス）：江戸時代の歴史地震の震源域・規模の再検討作業 — 7年間の成果中間報告 —
26. 石辺岳男・島崎邦彦（東大地震研）：気象庁一元化カタログ及び活断層データを用いた地震活動評価
27. 額縁一起（東大地震研）・吉井敏尅（日大）：「理科年表・日本付近のおもな被害地震年代表」の変遷

14時～16時30分 公開講座

歴史地震研究会・江戸東京博物館公開講座【首都直下地震について語る—安政江戸地震を踏まえて】

会場：江戸東京博物館1階会議室

司会：武村雅之（鹿島小堀研究室）

プログラム：

- 宇佐美龍夫（東大名誉教授）：安政江戸地震とその被害
- 小澤 弘（江戸東京博物館教授）：安政江戸地震と「名所江戸百景」
- 溝上 恵（東大名誉教授）：想定首都直下地震について

17時～18時 総会（江戸東京博物館1階会議室）

9月18日（日） 研究発表会三日目

10時～12時 研究発表会（江戸東京博物館1階会議室）

〔江戸・東京の地震〕（10時～12時） 座長：武村雅之

28. 伊藤純一（東大地震研）：江戸時代の震度計 — 震動の客観的基準を必要とした人々 —
29. 宇佐美龍夫（東大名誉教授）・渡邊 健（渡辺探査技研）：江戸（東京）における毎年の有感地震回数の変遷（第2報）
30. 都司嘉宣・伊藤純一・上田和枝・行谷佑一（東大地震研）：元禄地震（1703）の詳細震度分布
31. 中村 操（防災情報サービス）・松浦律子（地震予知総合研究振興会）・白石睦弥（弘前大）：安政江戸地震について
32. 白石睦弥（弘前大）：「秘日記」からみた安政江戸地震の被害
33. 諸井孝文・武村雅之（鹿島小堀研究室）：1923年関東地震による東京都心部の人的被害 — 1855年安政江戸地震との比較 —
34. 遠田晋次（産総研）・中村亮一（東電設計）・宍倉正展（産総研）・William H. Bakun・Ross S. Stein（USGS）：関東のプレート構造と安政江戸地震の震源
35. 古村孝志（東大地震研）・中村 操（防災情報サービス）・室谷智子・山中佳子（東大地震研）：明治東京地震の震源像と強震動